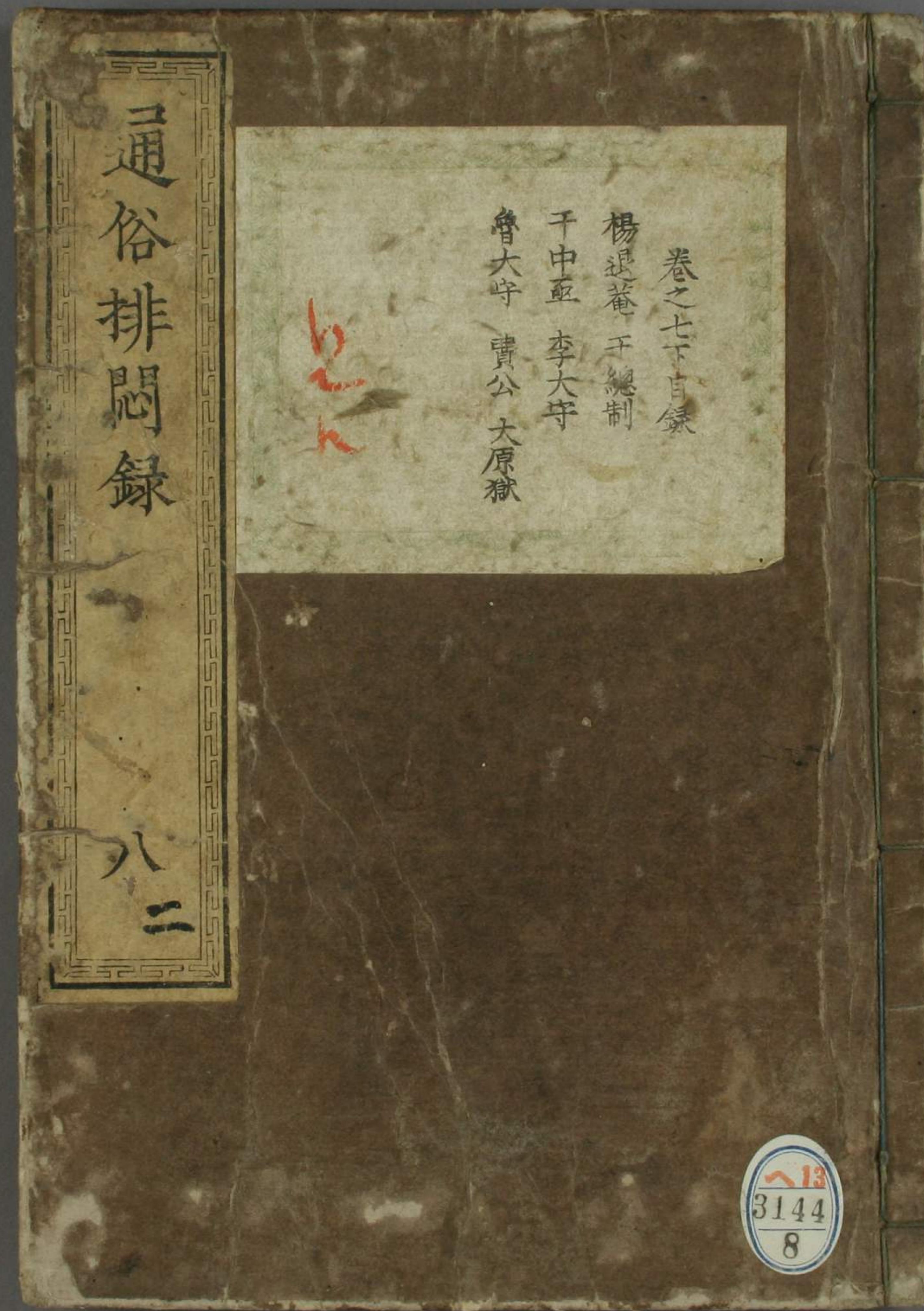


• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



通俗排悶錄卷之七下是

通俗排悶錄卷之七下

明斷之部

目錄

楊退菴

于總制

于中丞

李大守

魯大守

費公

大原獄

合七種

八
3144
8

通俗排悶錄卷之七下

明斷之部

楊退菴

六樹園翁

譯

全亭正直

校



西昌其事う地の楊退菴名を卓と云人。洪武かうぶ年と初廣東ちよひうとう地の行省けいせいの頃外わいがく鄉きょうと成る。居ゐた時周參政しゅうさんじやうと云者有ある。頗ほ頗ほ苛く剝ばつの生贋せうせん。人ひとを憐あらわむ事ことあり。或日士卒二十人じそく分付ぶふ。山さん遣おき木きを伐きら。士卒じそく共とも主命しゆめいを承うけ。忽すこに山さん中なか分わき散さんく木きを伐きる。兩りょうの卒そく山さん下げ。邂逅ふとふじん婦人ひじんの獨行ひとりゆき遇あ。廻まわ醉酔婦人ひじんを拘とらへ強まて道みちの旁わきの林はやし中なか入い。白晝ひぢ犯はさんととも。婦人ひじん大おお驚おどろき怒いの。罵のの從なハざさけまま。遂つい殺ころ。尸骸しがい其その儘ままで捨置すて。逃のがまま。婦人ひじん

家ゆくも。婦人帰らざまを人を遣踪跡を失ふ。林中ゆく婦人の戸を入出しき處に木を伐る士卒共の所為あらんと察ひゆ。即行省又訴へ物。周參政。時劍ち傍人あれを速め二十人を捕て。さまぐみ強く責拷問しけむ。士卒共痛苦不堪。もく脅引服を。依て退菴か屬と繫を置せしむ。退菴曰。一人の婦人を殺すふ。何ぞ二十人の命を断べんやと。周參政か復讐を請ければ。周參政。然どく曰。退菴今人を殺す賊を縱さんとも。やと云く。士卒を退菴か付し。復讐を成さしめ。退菴是を庭下に列べ。逐一聞訊く。其顔色を見。其言詞を聞。急に酒卒を指し。婦を殺す者汝等兩人也。速め訴え服をと罵りけむ。兩卒大に恐懼し。

吐寔トモ罪の伏しぬ。兩人の刃斧を生ましゆく。驗むる人を殺送徴。一見へとけ。十八人の者を放ち帰らしむ。周參政。退菴か向く曰。何を以て審め此度を料す知て玉名。退菴答く曰。二十人の者の公豈盡く同トかうんや。凶善惡の異有矣。且二十人皆在宅。何ぞ婦人を犯せるのせんや。犯す事もり猶あらず。況や殺すとを得可んやと云け。周參政其明斷。又歎服し。

于總制

永寧。号の于成龍と云人。黃州の洞知る。時。納め大盜ゆ。野中の古廟の中を隠き家とも。成龍敵衣を着て其行め到る。共小佐入らん。夏を願ふ。乃姓名を変じて楊二と云居る事十日

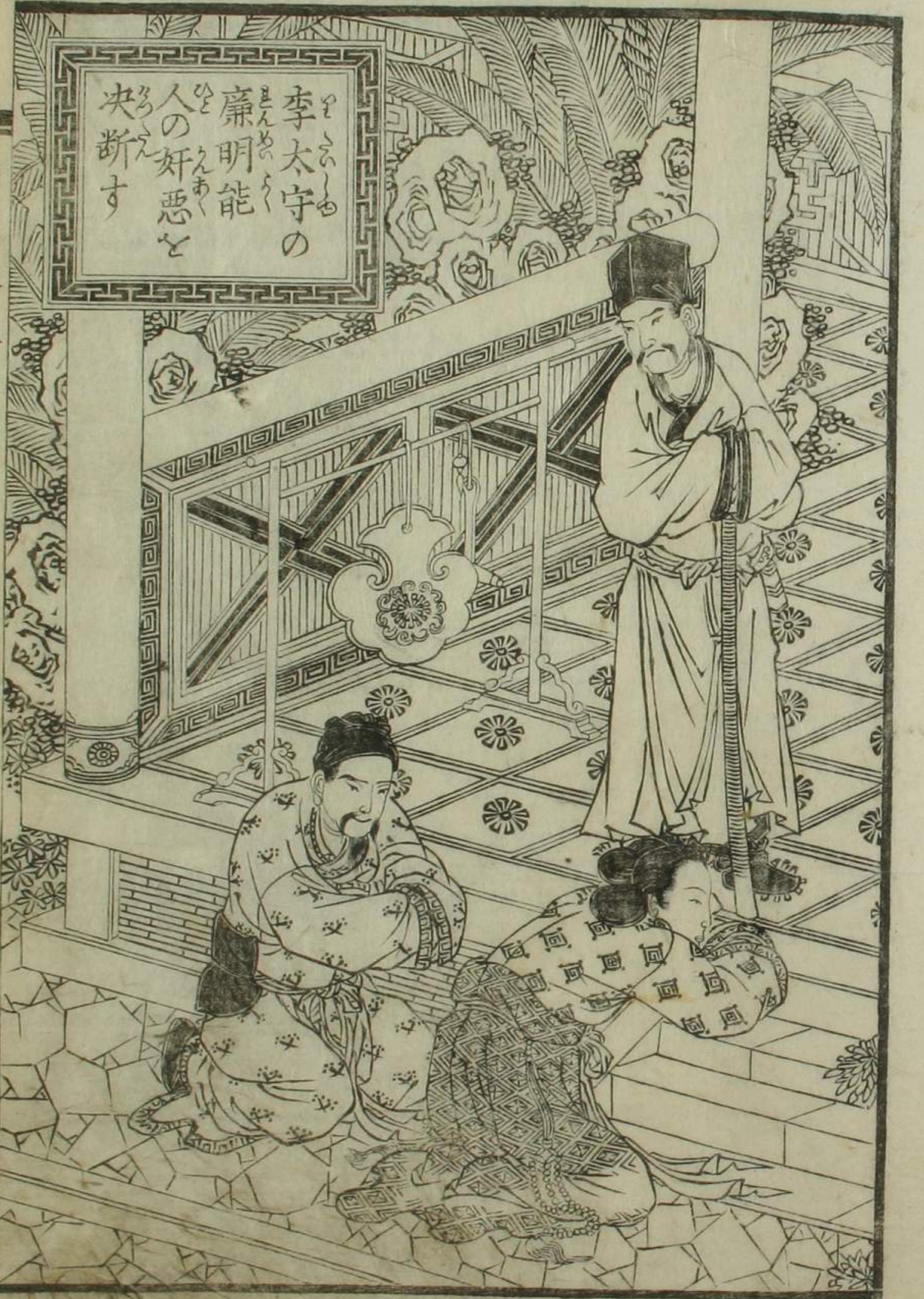
餘。盡く其行刦の状を會得へて帰り。密に捕役の命して擒みせしむ。盜怪と向て曰。誰を我を捕へしむ者ぞ。答へて曰。于二府我の命。トく汝を捕へしむと率行ける。盜府に入り、進見する。及く。仰て乃至て于二府と云ひ即頃獄門へ一場ニ也。盜大の驚く。言ひ及ぶも。首を俯して罪伏し。成龍堂を下す。自酒を酌く遍く飲へる。日。廟中一日の雅を念す。聊一樽の酒を用ひて訣別をあそ。特か汝等を刑戮の免ましめん。更を欲もあらず。人を以て棺を昇らしめし。皆佑あがめ棺の入。土中へ埋みる。成龍後より西江の各總制が成王ひきよし。西江強暴の悪黨共逃竄と跡を失ふ。一時神と稱せる者あり。

于中丞

于成龍。宰へる時。紳邑が行く。早旦か郭外を經過す。多か二人。多く林の上か病女を載せ。大被を覆ひ枕上髪を露し。髪ゆゑ。鳳釵一股を簪へる。がくええ。と。二十年。眠く居る。昇行者。又健男三四人。而傷か付そひく。更番歛を擁へて。身度を壓へ。修行さま。門の入を恐ろしが如し。少頃。路の傍へよもよく肩を息ら。又代を合へ。荷ひ行く。于公熟視。而行過。一矢。と遣く。答へ。于公又隸を遣へ候視せ。其入所何村。とりあづをさせ。是れ隸。是れ尾。と見え隠と不隨行け。或村か跡か跡合ふ。兩

人の男子を迎へて内へ昇入る。彼隸是を刀と速く奔りて。
此劍を白けり成龍是を仰ぐ其劍匣か問う。足下の隸下小
盜が逢たる者あり事無や否や答へ是あと云。其法へ上う
命令嚴いた故上下共小盜を遇へと云。其法へ上う
教へ。或も盜は殺さむて商者有主共。相互に惡い忍びて敢て出首
う事嘗てあり。于公館舎へ就く家人は囁き其其
に果して富室が強盜亂入。主人炮烙と死せ跡有す。然しこ詫
子隱忍ひて出首す。于公此度を審み家奴をけむ。其子を喰ひて
詫えども子固く承せ。于公曰。我既く其巨盜を捕て獄下せ。外
の子細をととの玉ひけを。其子忽頃首へと哀泣位。恨を雪へを由と

願ふ。夫トモ于公直く彼盜の絶縛を見え。あらぐののを云く
健仗を着て。密に彼盜舍へ行ひあけむ。忽八人を捕て帰て來れ
す。于公一喝して口を盡く罪又伏へ。于公向て曰。彼病婦を何者ぞ。
盗井供ふ。我等此夜同く勾欄か在て妓女と謀り合せ。効く金を
牀上に置く。女を抱せて臥す。病婦のやうを表か。窩頓處は至る
金を貯分又為す。あらと云ふ。りくとも皆于公の神明又服せ。是。
或人于公の此事を能く解する所以を向げ。于公曰。此甚知も易む
也。但人を袋關ひて故に知らざる。豈少婦床か在て人の手を
金底に入ると。知らず容ある女やうん。且肩を易く荷ひ行其勢ひ
甚重し。病婦一人の状非也。互に手を交へて左右より風の捲らる



め護つて行も必是其内は物乃至不。若少婦大病すと賠償し。夫の家へ帰る者あり。必婦人門へ倚て迎へ入るべし。止男子耳響く驚くうるやか。一言の問尋もせざる理やうんや是を以て考え外盜たる事確知ふこと云ひと云ふとぞ。

李太守

松江谷の李太守名も某と云人。性廉明ゆゑく人の奸を發せ事神のゆくある。或時婦人の其夫を誣る者有り。曰。妾が大海賊と通じて亂を作んと欲せと供せ。李太守婦人へ向て曰。汝夫と結髪の夫婦也。帰人若く曰。夫と結髪するの夫婦と雖然と反を謀る。其罪大あ。災害の妻孥及んるを恐る。故に自來て出首ること云けど。李

大守曰。やぐ拘つて究を極めとく。判状を封づて吏又附てナシ。婦人尾を下く拜謝して去る。少間あると李太守。吏又謂て曰。訴状を取上たゞとも且牌を行夏勿と三日の内。若人あく此事を探ら。若人わづ速め拘つて我前々拿來とと命づ。果して両日を踰て人来て問者あく。前日婦人の夫を出首する事。其時已又面のやうと准玉アリ何ぞ速め拘へ玉ハざ。吏給て曰。牌既ニ簽を送りて未だ帰ら。女少く待べ。即當拘へ来る。あくと云けど。其人果して留る。吏内に入く太守。斯と白々と。即命じて拿ま。前日吏又附せ所の封状を持來ら。其人か興へて自封を用ひせらる。其人封を發たく石を下る。狀中又判して曰。婦人の夫を出首する。世の中か歎く

無所。此女を如何んと來く探向者。是奸夫と有け。其人忽百色土の如く成る。是か於く李太守嚴しく記。玉を果して、婦人と奸通して其夫を誣陥んと謀す。遂に其婦と共に罪を行はせらる。

魯太守

成都地の守。斬水名の魯永清と云人。訟を決す。良水の流すが如く。きづくと判斷く。而も誣冤の者無く。廉明あむ。是故又門外か敷様の屋を架て。皆銅竈を構へ。訟者至まつて皆安ふ寓居す。然と共裁断速ゆ。一たび口とが即決する。故一人も兩次の飯を炊く者無く。唯一回炊くのみ。其遠方より来る者。荷擔を解ざる。中か

案結する故。其あら魯不解擔と云。而も搖ひ名をとど。或時姦を松る者ゆ。一方も和姦あまと云。一方も強姦ありと云。眞長自決を能く。能く。因て魯太守を送り。決を乞ふ。是自決も。能ひ。るのみ。非也。且魯太守の決法を試んと欲してあ。魯太守即と隸の力有者の命。ト。婦人の衣を表衣より一つ宛脱去し。次第ふ脱。獨裏衣よ。至く婦人死も。もあと。脱す。隸如何とせん。方。太守笑く。曰。苟め貞節を守らんと。ゆ。裏衣えも脱し。况や犯を。垂らや。即く。うち。を取く。和姦とせよ。

費公

淄川地の西崖社。賈者。夜途中。何者か。殺さる。

一夜を隔てて賈者妻も亦自經して死となる。賈人の弟も官
の鳴ら時浙江名の費公名を諱社と云入溜め所の名詔へ親詣
験して之。布被又銀五錠目餘を裹て腰に着て在り。西村
保を拘つて一週審質をとも。明亮あるが故皆釋して散ト帰ら
し。其後を但私小命じて地を約す。彼地方のことを細察せしむ。十日
か一二次で開白するのをきみ。半年を踰て其更漸く小懈を生じ。賈
が弟甚費公の仁柔を恐れまく屢々堂の噪る。費公怒て曰。汝既に能
の名と指し出首る事能ひ。却て我をして一々良民又桎梏を加へ
て怨んと欲するやと呵て逐出しき。賈が弟今も伸訴する所も
無く。憤を飲く兄嫂を葬マタ。一日縛賦の者數人を逮て至り
。

けふ其中一人周成と云者責らんと懼ましく。錢糧措辦已の
是と上言して腰中より銀を袱衆のまゝて稟しき。公驗視る
事良久便問て曰汝が家を何里ぞ。答て曰。某の村。費公
又問て曰西崖をある事幾里ぞ。答て曰五六里も有ん。費公又曰。亥年
途中の夜人知らず殺さる。賈者某も汝が何の係り有や答
て曰。其人曾く犯る。公勃然とあく大よ怒て曰。汝兄を殺かう尚
識らぞと云。周成力辨をきくも聽ず。嚴く責とかけめぐ。果して
其罪は伏て吐寔して是を乞う。先に賈者妻王氏。姻家の詣
とせし。釵飾無を慚けと夫の恥。鄰家婦人は假りて玉へと云
けども夫肯せざる。故自身の鄰家の行いと假りて帰り。姻家に行き

途中も甚珍重する。帰途より卸く袱の聚まと。袖の中に入て帰り
し。家を取て探すが已と無し。衣を振て足と共無し。驚きとじて
先夫と告ぐ。然ども鄰へ償ひ返せ力も無い。如何せんと甚惱苦し
て死せんと覺悟を極める。是日周成適途中。毛毬を拾ひ是賈者
妻王氏が遣してくる。毛毬を知る。毛毬を質す。不義を恐れんと思
ふ。竊々賈者の他適を窺ひ夜半。垣を踰え入る。時。溽暑の頃
あり。王氏庭中。臥居た。周成毛毬を取て大に喜び。暫く就く
間。毛毬の王氏始む覺す。既に覺く。大に驚き。大は號んとしき。周成
急め足を止めて。拾ひ。釵を懷中から出でて。袱を取て袖に入。釵を王
氏が手に納む。王氏毛毬を受て。更に毛毬を手に持て。王氏厲しく曰。此後必來モ

玉ある勿ミ。吾家の男子。みゆき人。若此更に覺知せを以て
俱み死ぬ。周成大に怒り。釵を胸當。勾欄數宿の資めぐらん。其
を狹束く。汝に贈る。何ぞ一度ゆく。償まべしやと云ふ。王氏毛毬を慰め曰。
妾も相交事を願ざる。非ず。然もとも速かに。更に欲せ。事成
ら。我夫善病。必死。必久く。死せん。從容とて。其死と待
玉へと云ふ。周成乃回て。までもう。王氏が夫死して後と云ふ。を忘る。今
能ひ。毛毬。賈者を途中ゆく。殺し。次の夜又王氏が處より。日。今
夫已か入。又殺さむ。願くも約束の所の夫婦と成る。王氏毛毬を復
そ大に哭し。悲しき堪らず。咽び入り。周成。中懼く逃去す。
天明と。毛毬を。王氏も亦自經。死ゆ。費公次第を察。一得く。

周成すゑのりが罪を正ただして刑けいが行はりきる。衆人共まことにか費公ひだりの神みことと服はけを。
或問たずねて曰い。何なにを以もつて其所以ゆゑを察さ知し玉たまを。費公曰い。是これ處ところと隨つれて事
物ものよ智ちを留とどめ在ある。初妻はじめのめが尸みを襯あわせ。時とき銀裹ぎんくわの袱ふくを萬字まんじと
刺ささ有あを認うなづけ。周成すゑのりが袱ふくを又萬字まんじを刺ささわ。是全ぜんく一手ひとてと
出だる者もの。一たび詰たずねか及およく周成すゑのりが言語ごんご錯亂さくらん。面色おもていろ忽こゝと如ごとく
に寢ねぐる。是これを以もつて其實情じねいじょうを確たしかめめしと云いふ。聞人きみ皆
歎たん稱めいせざるを無むき。

又同所ところよ胡成すゑのりと云い者もの。同理とうりの馮安ふんあんと云い者もの。父祖ふその時ときより代々
互たが々たが御ごりやくと睡ねかなす。或日いつ兩人りんにん對たい飲おく。薄醉はくざいと成なる。胡成すゑのり大言
いふ。日ひ必必ず食くを憂うひ玉たまを夏なつ勿ぬき。百金ひゃくきんの產うぶを成なる。難むずき良よふ非ひずと
云いふ。

云いふ。此胡成すゑのり家豐ひやうある者もの故ゆゑ。馮安ふんあん是これを嘆たんんで嗤わらひて居ゐる
けど。胡成すゑのり色いろを正ただして曰い。左思さうしの玉たまを寔まことに相告あひめり。昨夜途と
中なかで、大おほき大おほきの厚装こうそうを載の来る。行遇あひあひ。故ゆゑ我是われを顛たん越こく。南山なんざん
の賛さん井せいの中なかに擲なげす。是これを云いふ。馮安ふんあん尚まだ笑わらく信しんとせば。此時このとき胡
成すゑのり妹夫めいふの鄭倫せいりんと云い者もの。田産たんさんの賣賣めめ主ぬし有あるふ因いん。胡成すゑのり託たく
數すう百金ひゃくきんを寄よす。説合せつあを爲つく。時ときうりけうりけ。胡成すゑのり盡つくく其金そのをかかて
馮安ふんあんふくをふくを。馮安ふんあん遂ついに信しんととく。心中なか大おほき駭おどき。家いえ帰かる。陰かげと
其状そのじょうを呂ろ令れいの報ほうす。費公ひだり即そく時とき。胡成すゑのりを拘つかへ。馮安ふんあんと對たい勘かんせせ。是これの
胡成すゑのり其寔まことを白はく。是これを。鄭倫せいりん井せいの産うぶ主ぬしを喚かく。向むかふ記きす。無むくれ
共とも猶ようも賛さん井せいの中なかを驗たしかめめ。乃おの皆まことに共とも賛さん井せいに至いた。一役ひとわざの命めい。

布み縋らせ。井の中へ下へとまへ。果てて一人の首無た戸を牽せ
る。胡成尾を冠く大敵罵だ。辨すべを詞あく。但宛苦あ哉と云ひ
か。費公船と確う証據わ。汝狂屈と呼やと。死納具を以て
禁制せし。戸を堅く戒め。井の中より身を勿ら。只諸
村ふ曉介して戸の王わべ狀を投すべーと云ひ。一日を逾て婦入
を商ひ。途中ゆく胡成と云者を殺死す。願くとも相公眾を正
王へと云ひ。費公曰。井中の戸有アと云ひ。故左わべと乃戸を井
難一と云。王へ井婦人難く吾夫云々と云ひ。故左わべと乃戸を井
の中より身を出せ玉ひととが果てと姿あらず。婦人の夫あ

け。婦人を敢く夫の戸又近着す。二三歩却行え立て蹄び
き。費公曰。眞犯を已か捕らる。但骸軀未全かと云ひ刑又行ひ
難一。汝先暫く帰く死者の首を得るを待べ。死者の首を得を即
ト時ふ上司へ言上へ。其時又抵償せらんと。遂ふ獄中より胡成を
と喚出。訶く日明日頭を將至ぢんを。當ふ嚴械と股を折る
と云く。翌日役か仰く押護して頭を尋ねむ。終日やりて空く帰る
け。費公詰玉あ一言の咎もせず。但躊躇する所ある。故乃刑具
を以て胡成が前か置き。刑せんとある勢を視せ。即又刑せしと
曰。予想あ。汝當夜戸を扛く井中か投す。時忙迫く何處又
墮落せる。細くあ。奈何細く尋ねざ。胡成哀く祈くと急



見る事を容へ玉へと云ふ。費公婦人おとこと女めの幾何人いくつか
や婦人答へ曰無なき。又問へ曰汝そなへ夫何なんの戚屬さいぞくゆる答へ曰但堂叔
一人有あるの三さん公慨然として日少年こども夫を喪うしなひ伶行りやうぎょうとてとて倚よる
所ところ。爾そなへ殊こと何なんを以もつて生うを為なんと云々。婦人願ねがひくと相公憐憫れんび
玉たまへと云々哭かな大おほ一いつる。公又日人ひとを殺ころせる罪人ざいじんと已既定だまく未いまだ全戸
を得と。故此案あわせ未いまだ消きす。但首くびを落おちく骸體がいたい全く具そなへらむ。此案あわせ即
消きん案あわせ後あとを汝速おはか再醮さいしやくまま。汝そなへ婦人めの復か公門くわんふ出
入いりする勿つけと云々。婦人感かん位いと頭かしらを叩たたきと歸かる。公
即票そくひを所ところ々懸かけく村民みん示あらわし知しらしめ。其首くびを覗のぞ得と持も手て
金かな一いつと大おほり。一宿いっしゆくを經くわぐらく同村どうそんの玉五たまごと云者いわば。其首くびを獲とすおまきと

報稱ほうしめいけ玉たま。費公速おはか同驗どうけん玉たま。某もし甲こう首くびを已既明あらわくと
千錢せんせんを賜たまひ甲こう放ほを喚かかへと曰い。大おほ案あわせ已既成なまる。然しか共とも人命じんめい
連つづれれき。積たま上う歳と非でと結むすを成なす。更また能めへぞ。汝そなへ姪めい既既子こ。少すこ
婦人めの存そ活かを成な。得難とがく。早はやく入い。隨つづくと云い。仰あおせゆ。早はやく
母おや。甲こう叔とう領承りゆうしようへと歸かる。婦人めの此こを以もつて次つぎ日ひ復か來くると公こうの聲こゑ
當とう堂どう開あ白はく出だへと諭ゆ。知しせしトと其そ齡年齢下くだると即そなへ時とき婚こん狀じょうを投なげす
者もの。誰だと費公こう見けんと驗けんすと。即そなへ前まへ日ひ頭かしらと持も來く。王おう
五ご人じん費公こう即そなへ婦人めのを喚か上あへと曰い。汝そなへ夫めのと殺ころの真犯まんぼん今いま已既明ある。又また妻めいを失うしなつた。
汝そなへ知しらわ否ま。婦人めの答こたへて胡ご成せいと云い。費公こう曰い。とよ胡ご成せい非です。眞ま

犯を放と王五と二人も。其言未だらかる。二人大駭き面色赤如く
成て慄に振り。猶も寃誣ありと争て辨へけど。費公婦人に向て
曰已ふ久々其情と察し知る。然と心も遲々とへと發言せしも一も。
若萬一の届か成んと恐そ。故に尸未井より出でまふ何を確言と
しく夫と云度を指へ云へ。是夫の尸井の中より在るものと疾く知る故。
且夫の衣歟と絮めて。數百両の金何の處より持得あらんや。又王
五が向て曰頭の在る處能御。車の孰ある。如此急に其頭を抱する
者を二人速め合図と欲するが故にと云王へ。兩人一言も出する能はず。
並み嚴く械しけまば果して二人吐實をぞへ。蓋王五久々婦と
私通へる。其夫をたをかや殺へる。折へと胡成が戲どの公事よ
く。

大原獄

遼々華立とうと出でたり。因て乃胡成が罪を釋へ。馮安が証告を
罷れ。重く咎うち。徒罪三年を前卷を言つて。事已分明か結
く。誣罪が罹る者一人も無むとぞ。

大原獄

大原地の民が姑婦共が寡の者有。其姑中年が身り悪く死を
是故か村の無頼子毎夜來て其家が宿たり。婦尼を下すとぬるがゆ
け。門戸墻垣を何とぞ用心をして防ぐ。姑慚憎こそ事
托して。婦を逐ひえんとするが。姑益憲や反て婦を誣へ。官
吏鳴べる。縣令尾を仰ぐ。姑が奸夫の姓名を問ふ。温蒼て日夜來て脣
去まくる。其誰と云度を知らず。婦を鞠へ。王々自ら知り。因て婦を

呼出へと向婦果へと見て知りて其名を指して奸情を以て娼よ
帰す。縣令其名を摘へと呼出へとれば即無頬子至る。縣令是に向ふ。
無頬子答へと曰。兩人共に私生る所無し。彼姑婦常々不和ある故め妄
言へと互に相抵毀へ。縣令曰。左非ド。一村の内百餘の人何ぞ獨女か
誣せんやと重く咎咎と無頬子頭を叩く責を免まんるを乞
て。わねと婦と通せばと申ふまを乃婦を械へと繩する。婦終み承
せざる故。婦を逐妻せたり。婦怒て憲院を告ぐれども。憲院仍久く
して決する。更旅をモ。時に臨晉名の金錢孫柳下と云人獄を折く才
ありと世間より推け玉。憲院遂に此案を臨晉が下へと孫柳下又
折せ玉。孫公一派の人を盡く呼んで到着へとれば。略訊る事一過へと。

皆先監が寄託詫。隸人を希ドく磚石刀錐の類を集め。質明
入用次第は早速出でし。衆人其意を解さざりて始命の手と備を
つ。叔孫公明日早朝が堂へ升る。器具已に備そりとゆく。悉く堂上に
置く。乃犯者共を喚へて又一々略訊へと乃姑と婦と示向て曰。歸婦へ
未定生むとりども。奸夫を既に確か組そり。汝が家も元來清門
也。一時匪人の誘まて致す。度あらが服も全く彼無頬子が在る。
守刀石共の堂上かめり。汝姑婦共に自取く奸夫を擊殺せりとひ
けど。始帰共に避遁ふ抵償えきる。更を忍て暫く趨趣。孫
公其意を察へと曰。汝等遠慮す所事勿も。我云汝のありと宣ひ
カ。始帰あらびとも并に起て石を擲て交に投る。婦も恨を衝む

夏已少久。一望其氣。兩手而立。巨石在旁。立所必打殺。後恨。媼。惟小石。以。臂。眼。痛。生。輕。擊。着。孫公。又。拿。刀。以。殺。子。孫。媼。刀。與。人。刃。交。孫公。刀。奪。返。日。遙。媼。我。是。被。待。迎。命。媼。溫。孰。嚴。格。一。氣。遂。不。其。情。得。此。案。乃。結。一。氣。

通俗排闥錄卷之七下畢

